

旅をあきらめない

「行けない」と言われた方たちの旅行の記録



Non Profit Organization
特定非営利活動法人

しゃらく

付添い介助付き旅行

しゃらく旅俱楽部



原点 それは87歳の祖父との旅行

ロン毛にジーンズ姿の“粹”な祖父が、私は大好きだった。

国内・国外と、祖父との旅は数えきれない。

そんな祖父も糖尿病と闘い、下肢筋力の低下・肺気腫・心臓病と多くの病気を患っていた。私も金曜日になると岡山倉敷に住む祖父の自宅まで車で走らせ、祖父に付き添うようになった。

ある日、祖父が力なく言った。「じいちゃん、もう長くないかもしれない」そんな一言を受け入れたくなくて、「またどっか行こうよ」と返す私。

すると、窓の外を見つめながら、突然何かを思い出したように、祖父がつぶやいた。

「徳島県鳴門の人丸神社に行きたいな…」

徳島県鳴門市は祖父が生まれ育った町だった。そこに祖父が少年時代お世話になった神社がある。調べてみると、岡山から車で2時間。なんとかなる距離だ。

家族の反対を押し切って、祖父と祖母、そしてその娘である私の母と4人での小さな旅がスタートした。ただ、祖父の喜ぶ顔が見たい。それだけだった。

山の斜面にある小さな神社。

鳥居から境内までには、二階建てぐらいの高さの階段がある。

祖父は車いすからその階段を見上げ、ゆっくりと立ち上がった。

ベッドからトイレまで数メートルしか歩けない祖父が、地に足がついているのを確かめるように、一步一步階段を昇り始めた。どれぐらいの時間が経つんだろう、時計の針が止まったような感覚。自然と涙があふれた。

無事、境内に着くと、まるで生まれたばかりの赤ちゃんを見るような笑顔で、周りを見渡す祖父。たまたまそこにいた50代ぐらいの神主と、1時間ほど立ったまま話が進む。私たち家族も知らない、祖父の昔話だった。

旅には感動があるんだ。見えない力があるんだ。そんな確信に、魂が揺さぶられた瞬間。それが、しゃらく旅俱楽部の原点になった。

誰もが、旅行に行けるわけではない。そんな社会に気づいた。そして自然に思った。

多くの人にこの喜びを伝えたい。その思いを行動に移すのに、さほど時間はからなかつた。共感してくれる友人が3人、私の生まれ育った町、神戸に集まった。

2004年 人丸神社にて

そこには現実という大きな山

しゃらく旅俱楽部を始めるには、旅行業の取得や資金も必要になる。だが、貸してくれる金融機関もなかったので、昼も夜も夜中も皆で働いた。

日中は自分たちの事業で、夕方から居酒屋でアルバイト、そんな日々が2年間。
6畳一間で4人暮らしをし、寝食を共にすることで経費を削減した。

もう嫌だ、こんな生活我慢できない。そう逃げたしたくなったのは一度や二度ではないけれど、お墓参りする度に、亡き祖父に励まされた。

そして2年後、私たちしゃらく旅俱楽部が形になった。

リピーター率76%という事実

2008年4月からスタートしたしゃらく旅俱楽部。

大きく宣伝はしていないけど、口コミで多くのお客様にご利用を頂いた。

一人一人のお客様と向かい合ってきた。

道中の安全はもちろんのこと、旅への想いを感じ取ることに必死になった。

今は特に、旅行前の不安、無理だと思う心、心のバリアを取り除くことに力を入れている。そして、遠くは、北海道や鹿児島まで、いろいろな場所に「想い」を積んで、エスコートヘルパーがお客様と共に旅に出る。

「またお願いしますね」その言葉がいつも待ち遠しい。

その結果、76%のお客様がリピーターになってくださっている。

多い方では月に1回ペースで、少ない方でも年に1回～2回。

二年先のご旅行までご予約いただいていることが、私たちは嬉しい。

お客様皆様が、私たちを家族のように思ってくださっていることが何よりも嬉しい。

旅をあきらめないために…

私たちはしゃらく旅俱楽部を始めて約2年間、多くの方と旅を共にしてきた。
そんな経験を振り返って一番強く思うことは、
旅をあきらめないでほしいということ。
家族や周りの方が無理だと決めつけないでほしいということ。

旅には魔法の力がある。
いつもと違う景色。
いつもと違う食事。
いつもと違う空気。
全てを体に取り込むことで、新しい明日が始まる。
日常生活から離れる事で、心のリハビリに繋がる。

あきらめる前に、決めつける前に、
この冊子で事例を見ていただければ、きっと新たな日常が生まれる。
そう信じて。

特定非営利活動法人 しゃらく
理事長兼事務局長／エスコートヘルパー 小倉譲 拝



目 次

しゃらく旅俱楽部がはじまるまで	P3
目 次	P5
「旅に出たい」そう思ったら… ~お問い合わせから旅までの流れ~	P6
事例 1 「出かけるきっかけ」 81歳 男性 要介護 2	P10
事例 2 「不安の克服」 76歳 男性 要介護 2	P12
事例 3 「蘇る記憶」 83歳 女性 要介護 4	P14
事例 4 「息子の結婚式」 79歳 男性 要介護 5	P16
事例 5 「自分の可能性を信じて」 58歳 男性 要介護 5	P18
事例 6 「小さな希望」 70歳 男性 要介護 4	P20
事例 7 「出逢いの場所へ」 79歳 男性 要介護 1	P22
介護施設の団体旅行	P24
その他事例一覧	P25
しゃらく旅俱楽部とは？	P26
しゃらく介護タクシー	P27

旅をあきらめない

平成22年3月1日 発行



〒654-0071 神戸市須磨区須磨寺町2-2-4
 TEL 078-735-0163 FAX 078-735-0164
 E-mail sharaku@123kobe.com
 URL http://www.123kobe.com

発 行 特定非営利活動法人しゃらく

発行人 小倉謙

編 集 特定非営利活動法人しゃらく

装 丁 特定非営利活動法人しゃらく

本冊子に掲載されている写真、イラストレーション、および記事の無断転載、使用を禁止します。



旅に出たい。 そう思つたら…。



旅に出たい。そう思い立ってみたものの、どう進めていけばいいのかよくわからないという方が多くいらっしゃいます。まずは私たちのお客様の事例をもとに、どのような流れでしゃらく旅俱楽部が旅行を実現するのか、簡単に紹介させていただきます。

娘さんがたまたま見かけた「しゃらく旅俱楽部」のリーフレット。それがお客様とわたしたちとの初めての出会いでした。

1. お電話での簡単なヒアリング

「93歳になる旅行好きの父をどこかに連れて行ってほしい」とのお電話をいただきました。昔は、今は亡き奥様と一緒に毎週のように旅行に出来、たいていの観光地には足を運んだというほどの旅行好きとのこと。ある意味、わたしたちにとってはハードルが高いお客様です。

通常、最初のお電話では、どんな旅を望まれているのか、今までどんな旅行に行ったのかなど、旅への想いを簡単にお伺いします。

2. アセスメント・ヒアリング

日程調整をして、お客様が入居されている施設へ訪問。娘さんにケアマネジャーさんやヘルパーさんも加わり、アセスメント及びヒアリングを行いました。

私たちがまず行うこと、それはアセスメントと旅に関するヒアリング。アセスメントとは、お客様の旅での安全を確保するために、お客様のお身体の状態をしっかりと把握させていただくことです。病気や通院状況、日頃の介護状況に加え、日常生活についても詳しく伺います。ご本人様はもちろん

の事、ご家族やケアマネジャーさん、看護師さんや担当ヘルパーさんにもできるだけご協力いただき、旅行中のリスクをあぶりだしていきます。

それから旅への想いを聞くためのヒアリングも行いました。



具体的な行きたい場所や、食事の好みなどに加え、旅への想いがあれば詳しくお伺いします。これらが、後の宿泊先の手配や移動、休憩等、スケジュールに反映されていきます。

どこに行きたいのか、そしてその場所にはどんな想いがあるのか。

「行きたい」ということそのものも大事なのですが、なぜ行きたいと思っているのかという根っこ部分を聞かせていただけるかどうかで、旅の質も変わってきます。これも私たちが大事に考えているものの一つです。

また、体に思うように動かない箇所がある場合、外出しようとすると、ご本人やご家族に様々な不安が生まれます。最も多いのが、実はトイレに関する事。トイレは近いのだが、道中、何回トイレに寄れるのか、車いすでも入れるのか、ホテルのトイレに手すりはついているのか、手すりは使いやすい位置にあるかなど、心配される方は非常に多くいらっしゃいます。それ以外にも、安全に入浴できるか、体力が持つのだろうかといった不安を一つ一つお聞きしていきます。

その一つ一つの不安を取り除いていくこともまた、旅を心から楽しんでいただくために、とても大切なことだと私たちは考えています。

3. 行程表の作成・ヘルパーとの打ち合わせ

アセスメントが終わると、仮の行程表を作成します。今回は旅好き・歴史好き・温泉好きなお客様にぴったりの滋賀県長浜への一泊二日旅行。歩行機での歩行は可能ですが、日頃の外出時は車いすを利用しています。4年ぶりの旅行ということで、できるだけ移動の距離や時間は短かくし、ゆったりと楽しんでいただくための、プランを組みました。

アセスメントやヒアリングの内容を元に、旅の骨組みとなる仮の行程表を作成します。そこから更に、どんなバリアやリスクがあるのかを考え、それぞれの対応策などを肉付けしていく、行程表ができあがります。例えば車いすでの移動ルートにおけるバリアや車いすトイレの場所など、必要なものは全て現地へ行くなどして調べ、把握します。更にはエスコートヘルパーとの打ち合わせも行い、



実際に顔を合わせることで安心して当日を迎えていただくようにしています。

4. 旅の実施

4年ぶりの親子旅行

神戸から滋賀県長浜までの道のりは約130キロ。車でトイレ休憩を頻繁にとって約2時半の道のりです。4年ぶりの旅行とあって、出発前は笑顔を隠しきれない様子でした。車を走らせ、しばらくすると、お客様の母校、関西大学が見えました。下駄に袴姿で学校に通ったことや、他大学との小競り合いのお話。もう70年も前のお話を昨日のように話してくださいました。

アセスメントやヒアリングの際、差し支えのない程度に、お客様の若いころのお話などもお聴きします。昔通った学校や住んでいた地域など、思い出が詰まった場所をできるだけ行程の中に組み込むためです。

長浜に到着し、お食事。店の前には段差がありましたが、事前に連絡をしていたので、お店の人が手伝ってくださいました。入居している施設ではあまり箸が進まないお客様も、この時ばかりは一緒に同行している娘さんもビックリするぐらいの食欲でした。



私たちはもちろんお客様のバリアを取り除くことを大事にしていますが、バリアがないことを前提条件に訪問場所を選ぶことはしません。

まずはお客様が行きたいところをお聴きし、そこに行く上でバリアがあるのであれば、それをフ

リーにしようと考えます。食事場所も、まずはおいしいことやその地域ならではの料理を出すこと等を条件に、お客様に心から喜んでいただくことを最優先に考えます。



お食事が済んだあとは、観光へ。あいにくの小雨でしたが、石田三成生誕の地や長浜歴史博物館、姉川古戦場などに足を運びました。

早めに宿泊先の旅館へ向かい、小休憩。バリアフリーの設備が整った部屋に安心されたご様子。

部屋からは琵琶湖が一望でき、眺めているだけで心が落ち着きます。

お食事もお客様の負荷を減らすために、部屋食に。いつもと違う格別の料理を楽しめました。

お客様の様子を見ながら、疲れたかなと思ったら、すぐ休憩を入れたり、景色がとてもきれいでもうちょっと見てみたいなと思ったら、長めに時間をとったりします。臨機応変に対応できることが、オーダーメイド旅行の最大の魅力です。

夜のトイレも安心。

一般的に旅館のベットには手すりはついていませんが、事前に手すりを用意、設置しました。これで、夜中のトイレの時の立ち上がりの転倒も心配ありません。

宿泊先に必要な設備がない場合も、お客様に安心していただけるようにできるだけ工夫をしま

す。酸素ボンベや入浴用の車いすなども手配できます。

翌日は彦根城周辺を周り、昼食をとった後に施設に戻りました。

高齢で久しぶりの旅行をされる場合は特に、疲れが見られた場合のために複数のプランを想定しておきます。お客様と相談

しながら、予定を変更して進めることもよくあります。



5. 旅を終えて

写真を現像し、アルバムをお渡しました。

旅に出る前もそうですが、旅が終わった後も、写真を見ながら思い出したり、おみやげを渡しながら話をしたりして楽しめます。こういうところも旅がリハビリに繋がると思える要因の一つです。

4年間、旅行に行けなかったお客様ですが、今は月に1回ペースで旅

行に行ってくださっています。部屋に行くと、旅の予定日に○印を入れ、まだかまだかとの日を待ってくださっているそうです。いつも本当にありがとうございます。



旅に出たいと思いながらも、あきらめてしまう方が多くいらっしゃいます。その最大の原因は、設備のバリアではなく、心のバリア。人に迷惑をかけると考えたり、体力などへの不安を抱えたりしている人が非常に多いのです。周りの方もあきらめず、行きたいというサインが見えたら、ぜひサポートしてあげてください。

お客様の声

～お客様よりお手紙をいただきました～

丁寧な手紙でした。
山一さん 仰一様ニスヘビ思ひてます
足が苦しい ケモ活セマケルニヒ浮く空海
シニナリ。 いーか 仰一様トド思ひてます
アツクナアトヒビハズクー下ろしめト
シル思ひてますアリ
又一さんは面中お驚きほす。

担当者コメント

旅が終わるとき「次もまた頼むで～」。その言葉が何時も待ち遠しく感じております。
旅の友として、また楽しい旅をエスコートします!!

介護度	要介護 1	時間	行程
年 齢	93 歳		エスコートヘルパーがお出迎え
行 先	滋賀県長浜市		郷土料理専門店 住茂登 ご昼食
同 行	エスコートヘルパー 1 名		長浜散策
		1日目	姉川古戦場へ到着 小谷城跡へ到着 旅館 紅鮈へ
			紅鮈温泉を出発 彦根城に到着 「千成亭」に到着／昼食
		2日目	四番町スクエアを散策 お買い物 施設に到着



出かけるきっかけ

姫路→広島 「マツダスタジアムへ行こう」



Fさんは姫路市内に住む83歳の男性。昔から旅行が大好きで、現役時代はほとんど毎週末、旅行に出かけていた。

ところが6年前に脳梗塞で倒れ、入院。現在は奥様とリハビリに励む毎日だ。家の中では手すりなどを使って歩行しているが、外出時はいつも車いす。介助なしで遠出をすることに不安を感じ、旅行に行きたいと思いながらも、なかなか出られずにいた。

そんなFさんからほぼ毎月旅行のオーダーをいただくようになった。行き先はほとんどが10年前に訪ねたことのある場所。毎回街の変化を見ながら楽しんでいた。しかし今回は、こちらから広島にあるマツダスタジアムに行きませんか、と提案、ご一緒させていただくことになった。何度か旅行に同行する中で、Fさんが広島ファンだと漏らしていたからだ。

設備のすばらしさで有名なマツダスタジアム。もちろん車いす席もあったが、リハビリでだいぶ歩ける距離が伸びてきているFさんに

はぜひ、一般座席でと考え、球場の営業部の方に相談、全体が見えやすい外野のバルコニー席をご用意いただいた。

また、せっかく広島まで行くので、縮景園にも立ち寄るプランに。

当日はあいにくの天気。残念ながら縮景園では土砂降りの雨で落ち着いて庭園を眺めることはできなかった。しかし試合開始が近づくにつれ、天気が回復。ゲームの開催も無事決まり、時間通りに球場に入ることができた。家族連れなどにぎわう球場内。バルコニー席に腰を下ろすと、二人とも、球場独特の雰囲気に包まれた。

ノックの打球音。野手のグローブに白球が収まる音。ナイターのカクテル光線。それらをじっくりと味わうかのように、周りをゆっくりと見渡すFさん。

あいにく試合では広島が負けてしまったが、ナマの野球観戦の魅力は十分に感じられたにちがいない。

お客様の声

～お客様よりお手紙をいただきました～

広島カープを応援するため、やうくの須貝さんと広島カープの村山也
マツダスタジアムに出かけることが出来ました。
球場は新しくなり、従来の設備より数段すぐれて身体障害者にも
配慮された立派なものでした。
私も楽しいひとときを過ごすことが出来ました。が残念ながら試合
はヤクルトに負けました。
病気によっても野球応援が出来たことはありがたいかったです。
しゃくの皆様に感謝しています。

担当者コメント

これでFさんの楽しみ、出かけるきっかけがまた一つできたと考えると、心からうれしく思います。これからもFさんの「できることリスト」を増やして行くお手伝いをしていきたい。そう願っています。

介護度	要介護 2
年齢	81 歳
行先	広島県広島市
同行	エスコートヘルパー 1 名



時間	行程
8:25	エスコートヘルパーがお出迎え
8:30	ご自宅を出発、JR姫路駅へ
9:19	新幹線ひかり 495 号で広島へ
10:21	JR広島駅に到着、タクシーで縮景園へ
10:50	縮景園に到着、散策
11:50	日本料理 三帽(さんび)でご昼食
12:50	タクシーでマツダスタジアムへ 球場内散策
14:00	試合開始
15:00	試合終了、カープ 3 対 0 で完封負け
17:30	かき名庵でご夕食
18:51	新幹線ひかりレールスターに乗車
20:10	ご自宅に到着

不安の克服



石川→修善寺温泉 2泊3日の旅

石川県にお住まいのSさんは75歳。会社の経営者として休みなく働き、引退したら毎月旅行を楽しもうと思っていた矢先に心筋梗塞を患い、心臓のバイパス手術の後、車いすの生活となった。

元々旅行が大好きなSさんは海外も含めて何ヶ所も旅行に出かけられていたが、宿泊先や交通機関のバリアフリー状況が心配で気軽に外出できないようになった。たまに旅行に出られる時にも飛行機かタクシーで、鉄道にはとても乗る気になれない、という状況だった。

そんなSさんから今回オーダーをいただいたのは、静岡県伊豆地方の伊東温泉と修善寺温泉。車いすでも問題なく入れる大浴場、バリアフリールームのある宿泊先と、現地での入浴介助の依頼先を調べ、すぐに手配した。また、地元のものにこだわった食事先もプランに組み込むと同時に、ゆったりのんびりできるよう、観光する場所もできるだけ絞ってスケジュールを作成した。さらには今回、今後のこ

とも考え、約20分だけだが、新幹線の乗車にチャレンジしていただくことにした。

当日は静岡空港からタクシーで静岡駅に到着。早速新幹線に乗ることになり、やや緊張した面持ちのSさん。まずは乗務員さんが改札からホームまで誘導、乗車も手伝ってくれた。全く問題なくスムーズに乗車。何十年ぶりに乗ったせいか興味深く車内を見回して、すぐさまトイレの状況を見に行くSさん。そして問題ないことがわかると、ホッとされた様子で、「なんだかちょっと自信がついたかな…」と、一言。これで電車に乗れるようになり、旅行の幅も広がることを考えると、心からうれしく思う。

入浴に関しては、1日目は伊東温泉、2日目は修善寺温泉のお宿に宿泊し、それぞれ入浴介助は現地のヘルパーさんがしてくれた。それぞれ丁寧にお仕事をしてくださったおかげで危ない場面も全くなく、Sさんも温泉の大浴場をすっかり満喫されていた。

お客様の声 ~お客様よりお手紙をいただきました~

今回の伊豆旅行での一番の収穫は短時間で新幹線を利用できることです
新車椅子による十数年振りの体験では、今まで車椅子ユーザーを4ついました
これまで旅の中が大きく広がる事ができます。駅員さん車掌さんの連携により改札口
より列車の中 車椅子の入れるトイレ等完備にあり空港等含め各自で持つ出掛け
ることができます
お供障害者は車椅子30%不運が70%あります押され等の事はやましく
事前調査で適応できる施設リストアップしてあります。温泉でなく駅や大浴場
へ入ることは現地のヘルパーさんの手配でつなぎ本当に皆さんの心配や
心配が無事75歳の障害者を持つ後期高齢者のペア旅行も今の時代ですねほとんどの
幸わせを身につけ感じます
来年は豪華に泊りますが気力体力の弱り安心と安全を提供いたします
しゃくさんのおせちにさり旅を西日本へまいります

担当者コメント

大好きな温泉旅行もなんなく行けるようになり、Sさんも行きたい場所がいくつも出てきたようです。これからも旅行がSさんのリハビリの力となるよう、安心して心から楽しめるプランをご提案していきたいと思います。



介護度 要介護 2

年 齡 76 歳

行 先 静岡県伊豆地方

同 行 エスコートヘルパー 1 名

時間	行程
1日目	小松空港に集合 富士山静岡空港に到着 漁師家大次郎丸でご昼食 伊東わかつき別邸にご宿泊
2日目	城ヶ崎海岸に到着 網元徳造丸魚庵でご昼食 河津七滝に到着、初景滝へ 修善寺○久旅館にご宿泊
3日目	竹林の小径を散策 とっこ湯～修善寺 伊豆・村の駅に到着 うな繁でご昼食 小松空港に到着

蘇る記憶

神戸→京都 日帰りの旅



以前訪れたことのある京都、伏見稻荷神社。Nさんにとっては千本鳥居が印象深い、思い出の地だ。

夫は生前20年もの間、右半身不随の状態で過ごした。その夫も伏見稻荷を訪れたいと強く願っていた。だが、その想いが遂げられるとは、ついぞなかった。

そんな夫が大切にしていたのが神棚。お供えを欠かさず、掃除を忘れる日もなかった。手を合わせて深々とおじぎをする夫の姿が、今も不意に脳裏に蘇ることがある。

ある日、ふと神棚が目に入った。

夫がいなくなつてからというもの、誰も世話をせず、昔と何一つ変わらない姿のまま、そこに残っていた。

「伏見稻荷神社へ行こう」Nさんはそう思い

立った。

娘さんはNさんの時々出る認知症の症状を心配していた。少し人見知りをしたときなどに、パニックになることがあるからだ。

依頼をいただいた後、私たちはすぐに娘さんやケアマネジャーさんたちと相談、旅行前に何度もご自宅を訪問することにした。エスコートヘルパーの声や雰囲気に慣れていただき、できるだけリラックスした状態で旅行当日を迎えてほしいからだ。

また、普段は少しの距離なら歩けるというNさんが、千本鳥居までたどり着き、無事通れるのか。そんな不安もあった。

そこで、事前に下見を行い、車いすでも雰囲気を感じられるコースを考えた。そして旅行当日。Nさんが声をかけてくださいました。

「いつもお世話になっている兄ちゃん、今日は頼むね！」

うれしさが込み上げてくると同時に、楽しい一日になるという期待も膨らんだ。

お宮参りした後、千本鳥居を通るNさん。生前のご主人の記憶を少しずつ蘇らせているようで、いつもと違う笑顔がこぼれていた。あきらめていた旅行、あきらめていた伏見稻荷への参拝も叶い、昔の思い出に浸ることができたのだ。

ご自宅に到着し、家の中までお見送りした。帰路に着こうとバックミラーを覗くと、普段は一人では歩こうとしないNさんが玄関から出てくるのが目に入った。

そして車に向かって一生懸命手を振ってくださっていた。その姿は見えなくなるまでずっと続いていた。

担当者コメント

人見知りの激しいお客様でしたが、旅を通して心と心が通じ合ったいい旅行になりました。

介護度 要介護 4

年齢 83 歳

行先 京都伏見稻荷

同行 エスコートヘルパー 1 名



伏見稻荷のパンフレットを元に写真とイラストで表したMAPを作成しました。

境内のバリアフリートイレや車いすでも通れるルートをご説明し、お客様に安心して境内を散策していただけたためです。

どこにどんなバリアがあるのか、また、どのようにすればそれらが取り除けるのかも説明し、お客様のご要望と擦り合わせながら回る場所も決めていきます。

このような方法は時間はかかりますが、お客様にも納得していただける、オリジナルのプランができます。

時間	行程
8:50	介護タクシーがご自宅にお迎え
9:00	ご自宅を出発
10:30	伏見稻荷大社に到着 ご参拝・ご散策など
12:00	伏見稻荷大社を出発
12:30	ご昼食 ご散策など
13:40	伏見の酒蔵街を出発
15:00	ご自宅に到着
15:10	介護タクシーが帰社

息子の結婚式

「要介護5で認知症もある父親を、弟の結婚式に参加させたい。ただ、身内の結婚式だけに、お客様を迎えるなくてはならず、そばにいて世話ができない。」そう電話してきてくださったDさんの娘さん。特急を使っても4時間以上かかる遠方のお客様で、お受けできるかどうか、私たちも少し悩んだが、「どうしても連れて行ってあげたい」、「認知症になる前はずつと息子の結婚のことを気にしていたので、どうしても参加させたい」という熱い想いに心を打たれ、受けさせていただくことに。

一旦引き受けた以上、安全面など妥協をしないのが私たちのポリシー。事前にDさんの元まで足を運び、ケアマネジャーさんや担当のヘルパーさんからお話を伺いし、その場でお客様の介護のお手伝いもさせていただいた。また、結婚式会場まで足を運び、現場状況を把握すると同時にプランナーの方と相談。喉に障害があり硬いものが食べられないで、軟らかい食べ物に変更、更には移動の事も考えて席の配置にも配慮していただいた。

当日、施設から出発するDさん。介護タクシーに乗り結婚式会場に向かう中、今なぜ自分が移動しているのかがおわかりにならない様子。認知症の関係で、ご自身の奥様と娘さん以外は認識できなくなっていたからだ。会場に着いても、多くのご親戚が「久しぶり！元気だった？」と声をかけてくださるのだが、覚えていないせいか全く言葉を返さない。時々パ



ニックが起きて、大きな声を出されていた。

そんな状態で臨んだ結婚式。

腕時計の針の音が聞こえてきそうな静かなチャペル。新郎と新婦が神父の前で永遠の愛を誓っていた。

唾を飲み込むにも音が響きそうな雰囲気。誓いのキスが始まろうとするその瞬間、

「おめでとう！」
「ありがとう！」

静寂の中で大きく響くDさんの声に、降り注ぐ周囲の驚きの目。エスコートヘルパーの私も、そっとDさんの肩を抱き、「大丈夫ですか？」と声をかけようと顔を覗き込んだ。すると、Dさんの目からは大粒の涙が。ずっとわかっていたのだ。そして、この場に、この瞬間に感動していたのだ。私自身も感動で胸がいっぱいになった。

お客様の声

～お客様よりお手紙をいただきました～

この度は 爺の 結婚式に 際し 礼儀
なり ありがとうございました。
下へ 様々 家族揃え 祝う事が
ござました事、本当に感謝いたします。
父も 嫁へ 晴れ姿で 1から10に 焼き
つける事心で そたと思ひます。

父不在で とり 行わなければいけなかた式
か、「旅は最高。リハビリ」という言葉に
依頼、下車により、父が存在する最高の
結婚式になりました。

これからも すばらしい活動で 幸助けが必要な
方々を 応援にあた下さい。

書面では とても伝えきれない感謝の思いを
いっぱいですが、まずはとり急ぎ 御礼です。

担当者コメント

認知症だからわからないのではないん
だ。そう感じると同時に、遠くまで来て
よかつたと思えたエスコートでした。



介護度 要介護 5

年齢 79歳

行 先 石川県金沢市

同 行 エスコートヘルパー 1名



時間	行程
9:30	エスコートヘルパーが施設に到着
10:00	施設を出発
	結婚式会場に到着
11:00	ロビーで写真撮影
	結婚式リハーサル
12:00	結婚式
13:00	ご披露宴
15:45	結婚式場を出発
16:30	施設に到着

自分の可能性を信じて

鳥取→横浜 1泊2日の旅

定年退職を2年後に控え、脳梗塞で倒れたその瞬間からIさんの生活は一変した。何不自由なかった生活から、病院での長い入院生活。退院しても1日のほとんどをベッドで過ごすことになった。

しかし一度は希望を失いながらも、現実と向かい合い、少しでも明るい未来を見い出すためにも、かわいがっていた甥っ子の結婚式に参加したいと希望を持った。

Iさんのお住まいは鳥取県で、結婚式の会場は横浜。車で行くのか、電車で行くのか、飛行機で行くのか、ケアマネジャーさん、担当ヘルパーさんやご親族と長い議論を交わした。

ご家族のご意見は「無理だ、あきらめた方がいい」ケアマネジャーさんは、「せっかくの機会だし、リハビリを兼ねて行ってみては」

私たちは、「座位の保持が難しいため、リハビリをしていただいた上で、数時間の座位保持が可能になれば行ける」と、意見が分かれた。

Iさんご自身には、「めったにないこの機会、自分自身行けるかどうかを試してみたい。」というお気持ちがあった。そこで、「リハビリを行って、座位体制の保持が出来るよう頑張



る」とおっしゃり、結婚式の2週間前に最後の決断をする、ということで話がまとまった。

どちらに転ぶかわからない。その中で、横浜中華街に行きたい、池袋にも行ってみたいと、希望がなかった生活から希望が見える生活に変わり、リハビリに励んだ分、そのまま成果として表れ出した。ケアマネジャーさんの温かい支援も後押しした。デイサービス等でも積極的に訓練をとり入れてくださるだけでなく、頻繁に私たちに状況を報告してくださいました。

出発当日、リクライニング車いすでの移動。飛行機以外は基本的に横になっての移動。飛行機では、前に倒れないように、エスコートヘルパーが横に座り、リクライニング車いすに

移動するまで抱えた。空港内や飛行機内でも、航空会社に事前に連絡を入れておくことで、最大限の配慮をしていただくことができた。

倒れてからの初めての宿泊をともなう外出。到着した夜は非常に疲れていたが、東京支社に勤めている、Iさんの後輩にあたる方が訪ねてきてくれると、急に元気になり、楽しそうに食事をとられた。

翌日、ホテルから小一時間走らせ到着した結婚式会場では、遠方からわざわざ来てくれた、と新郎新婦が駆け寄って喜んでくださった。

鳥取に帰ったIさん、別れ際に一言。
「次は韓国やで」



担当者コメント

韓国、是非リハビリを頑張って行きましょう。その時は私がまたエスコートします。

介護度	要介護 5
年 齢	58 歳
行 先	神奈川県横浜市
同 行	エスコートヘルパー 1 名

	時間	行程
1日目	エスコートヘルパーお迎え	
	ご自宅出発	
	羽田空港 到着	
	新横浜国際ホテル到着	
	ホテルにて休憩	
	ホテルにて食事	
	就寝	
2日目	ホテル出発	
	結婚式場 到着	
	親族紹介／結婚式／披露宴	
	結婚式場 出発	
	羽田空港着	
	鳥取空港到着	
	ご自宅に到着	



小さな希望

2009年10月

徳島→西宮　日帰りの旅



Kさんは半年以上、一步も家から出でていな
い。なぜなら、エレベーターのない4階に住んで
いるから。

外出できないという現実。心の中に、先だつ
た妹の納骨式がまだできていないという違和感。
そして葛藤。

ある日、しゃらく旅俱楽部の噂を聞いた。なんとかしてくれるかもしれない。小さな小さな希望だけど、半ばあきらめていた外出を一本の電話に託し、番号を押した。

電話をいただいた私たちは、ケアマネジャーさんに連絡、事前に情報収集をしたあとでご自宅に向かった。

5年ほど前、脳梗塞で倒れてから外出という外出はしていない。日々のリハビリの努力の成果も試すことなく、月日が流れている事を感じる。

1階から4階、4階から1階への階段は簡単ではない。私たちは何度も足を運び、現地(徳島)のボランティア協会やNPO法人等を

訪問、階段の昇降介助の依頼を行った。旅の当日だけでなく、それ以外の日にも、とお願いした。旅をきっかけに、外出したい時に外出できる環境を作ることも大事なことだと考えるからだ。

なんとか手配が完了し、Kさんにお話をした時、あきらめていた旅行が「希望」から「目標」に変わった。

当日の納骨式、いつもより念入りに髪をそり出発。徳島を出るのも久しぶり、車での移動もまた久しぶり。淡路を越え、明石大橋を越えて西宮に入る。

脳梗塞で倒れ入院中になくなった妹。納骨式、遺骨となった妹と会った。涙が止まらない。様々な複雑な思いを抱えたまま、Kさんの誕生日でもあるこの日、妹の前で誓った。

「今日で70歳。70の7をとって、ゼロからスタートします」

お客様の声

～お客様よりお手紙をいただきました～

旅行を前に書いたと

1. 最初は不吉かあはしたがり多様サポートです、からいはれていたけれどかれこれで大
2. これはチャンスに外出に行くかと思ひます。
3. 家内もどこかよろしくてまだ旅行にはまることなく、
4. 細かいスケジュールはめぐらしたと
5. 生物とごめんなさい時間があれど、
6. 本当に有難うございました、感謝感謝です

担当者コメント

様々な想いを乗り越え、久しぶりに対面した妹の前での、言葉なき決意。その決意が、また新たな旅を作っていくような気がしました。

介護度	要介護 4
年齢	70 歳
行先	兵庫県西宮市
同行	エスコートヘルパー 1 名 ボランティア 3 名

時間	行程
8:30	エスコートヘルパーがお迎え
8:50	ご自宅出発／階段をおります
11:20	墓地に到着 納骨式
12:00	墓地を出発
12:30	甥子様宅に到着
15:15	トイレ／淡路ハイウェイオアシス休憩
18:00	ご自宅に到着 スタッフが片づけ等のお手伝い スタッフ 3 名が 4 階に上がるお手伝い



出逢いの場所へ



神戸→永沢寺菖蒲園　日帰りの旅

夫が見えない敵と戦っている。末期の癌だ。久しく行っていない旅行。妻は夫の行きたいと思っている所に行きたい。夫は妻自身が行きたい所に連れて行ってあげたい。一緒に旅行に行きたいという2人の共通の思いから、私たちに連絡をくださった。

お話を進めていく中で、妻は「お父さんと高野山に行きたい。お父さん、行きたいと言っていたから」と私たちに伝えてきた。神戸から高野山は休憩を十分にとって行けば、約半日必要になる。

夫は「永沢寺しょうぶ園に行きたい」と私たちに伝えてきた。30年ほど前に見た菖蒲が忘れられないと、妻が菖蒲の季節になる度に話すからだ。

お互いがお互いを思う気持ち。長い間連れ添ってきた二人にしか理解できない愛情を感じる。数回に渡り話し合った結果、夫の体力を考慮して永沢寺しょうぶ園、そして、有馬富士の麓にある公園に行くことになった。話を聞いていくうちに、二人の出逢いの場所が、有馬富士が見える病院だったということがわかつたからだ。当時、生死の間をさまよう状態だった二人は病院の中で出逢い、入院生活の後、結ばれたのだった。

体調がよくないため、あまり話さない夫。ただ、喜んで花を楽しむ妻の姿を見て微笑む。普段、食事制限もあり食欲もないが、今日に限っては天ざる蕎麦やわらび餅を全て食べた。妻に心配をかけないよう、頑張っているように見えた。

帰り際に寄った有馬富士。山の周りの雰囲気は大きく変わったが、山の形は変わっていない。山を長い間見つめる夫。初めて私たちに妻との写真を撮ってほしいとお願いしてきた。

この場所には、この二人しか知らない思い出がいっぱい詰まっているのだろう。

この山が見える病院で、二人は出逢い、どんな気持ちでこの山を見つめていたのだろう。

短い旅行だったが、何十年も前にタイムスリップしたような旅行になった。

旅から一週間後、夫は入院。
それから一週間後、静かに息を引き取った。

久しぶりに奥さんに会いに行き、一緒に食事に行った時、「小倉さん、最後にお父さんと一緒に旅行に行けて良かった、ありがとう」と言ってくださいました。



担当者コメント

二人の思い出の中にしゃらく旅俱乐部を関わらせてくださって、こちらこそありがとうございます。

介護度	要介護 1
年 齢	79 歳
行 先	兵庫県三田市
同 行	エスコートヘルパー 1 名

時間	行程
9:45	エスコートヘルパーがお出迎え
10:00	ご自宅を出発
11:15	永沢寺しょうぶ園に到着 菖蒲鑑賞 水無月亭でご昼食
	散策
14:15	永沢寺しょうぶ園を出発
14:45	有馬富士公園に到着 有馬富士がよく見えるスポットへ
16:00	有馬富士公園を出発
17:00	ご自宅に到着



介護施設の団体旅行

神戸市内にある、ある通所介護施設の団体旅行に行ってきました。日頃はリハビリに励む皆さん。外出の機会はあまりなく、久しぶりの外出となったようです。東山寺の紅葉鑑賞だけでなく、ご住職のご法話も聴くことができ、皆さん本当に楽しそうにされていましたが、一番はやっぱりお買い物。地元でとれた野菜や海産物を、両手いっぱいにして帰ってきました。買い物も旅の楽しみの一つなんだという当たり前のことを思い返す一日となりました。



お客様の声

秋の淡路島ということで、興味津々、デイサービスでのバス旅行ということで、みんな大喜びであった。たこせんべいが名物と聞き、その菓子店で迷いながらお土産を買い求めた。まるで子供にかえったようだった。東山寺では皆さん、尼僧さんの法話を聴き、外に出て小さな葉っぱのついた真っ赤な1本のもみじをつけ、記念に写真に納めた。たった一日のバス旅行だったけど、全然旅に出ない私たちには、とても楽しい一日であった。

行先	淡路島
期間	日帰り
時期	2009年11月29日
宿泊	無し
交通期間	大型バス
参加人数	59名
介護度	要支援1～要介護3
職員	5名
ボランティア	6名

職員の方の声

デイサービスのご利用者様は、普段限られた範囲でしか外出できない方が大半です。

施設でのトレーニングは身体機能の向上に偏りがちで、常々、心を豊かにすることを提供できないかと考えておりました。その折、しゃらくさんと出会い、旅行を通した心のリハビリを企画していただきました。

時間	行程
9:00	施設Aに到着
9:40	施設Bに到着
10:20	たこせんべいの里に到着
11:30	淡路ごちそう館御食国で昼食
13:30	東山寺に到着 法話 紅葉鑑賞
16:20	施設Bに到着
17:00	施設Aに到着

その他 事例一覧



1 要介護2 / 74歳 男性

脳梗塞後遺症

阪神タイガース戦観戦

熱狂的な阪神ファンのお客様を、介護タクシーで阪神甲子園球場までお連れしました。バックネット裏からの眺めは最高で、一緒に六甲おろしを歌うなど、生の雰囲気を存分に味わうことができました。



2 要支援1 / 81歳 女性

脊柱管狭窄症 生まれ育った町への里帰り

64年ぶりに生まれ育った町、須磨へ。小学校や近所の神社など、幼い頃によく遊びまわった場所を訪ねました。昔の家はもう跡形もありませんでしたが、様々な記憶が蘇る「心の旅」となりました。



3 要介護4 / 82歳 男性

脳梗塞後遺症

同窓会への出席

60年続く小学校の同窓会に出席し続けたいというお客様を会場までお連れしました。大きな笑い声が響き渡る、にぎやかな同窓会。参加者は全員82歳でしたが、一人ひとりのお顔は学生時代に戻っていました。



4 要介護1 / 83歳 女性

両膝変形性膝関節症

靖国神社参拝

ご主人を戦争で亡くし、今までずっと一人暮らしを続けてこられたお客様を、靖国神社へお連れしました。ご主人の写真を目にして、涙が止まりませんでしたが、遺族として初めての参拝を、しっかり成し遂げられました。

しゃらく 旅俱楽部とは？

主に介護付き添いが必要な方を対象とした旅行会社です。



しゃらく旅俱楽部の特徴

- ①お客様の身体状況、ご要望に合わせたオリジナルプランの作成
- ②旅行中はエスコートスタッフがサポート
- ③一般的の旅行だけでなく、結婚式や法事、墓参りなども OK

ご旅行までの流れ



必要なご費用

お客様の旅費

- 移動交通費
(飛行機、電車、タクシー代金など)
- 宿泊代金

- 食事代金
- 入園料や拝観料等

エスコートスタッフの旅費

- 移動交通費
(飛行機、電車、タクシー代金など)
- 宿泊代金

- 食事代金
- 入園料や拝観料等

エスコートスタッフ人件費

- エスコートヘルパーは 2,400 円 /1 時間、
- 看護スタッフは 3,600 円 /1 時間が基本料金となります。

その他経費

- 安全対策費(アセスメントやバリアフリー調査などリスク管理にかかる費用)
- 企画料金(プランニングにかかる費用)

ご旅行代金

お見積りには料金がかかりません。まずはお気軽にご相談ください。

078-735-0163 (担当：小倉 / 須貝)

車いすでも安心!!スロープ完備!



しゃらく介護タクシーの車両はスロープが装備されており、車いすでも安心してご乗車いただけます。

乗降もラクラク!!自動乗降システム



助手席には、自動乗降装置が搭載されています。車の段差が不安な方たも座るだけでラクラク乗降可能です。

ステップ付きで足元も安心



後部座席にもステップがついておりますので、乗り降りがラクラク。安心してご利用ください。

遠くまでどこへでも。
車いすのまま、出かけよう。

看護師やエスコートヘルパーも同乗可能です。

料金表

距離制運賃

初乗り運賃

1.8kmまで

620円

加算運賃

298mごとに

80円

時間距離併用運賃

時速10km以下の運行について1分50秒ごとに

80円

運賃の割増及び割引

深夜及び早朝割増
(22時から翌朝5時まで)

2割増

身体障害割引
知的障害割引
遠距離割引
(9,000円を超える金額について)

**1割引
1割引
1割引**

時間制運賃

時間制運賃

30分ごとに貸切

2,100円

運賃の割引

身体障害割引
知的障害割引

**1割引
1割引**

